

## 広島アピール

われわれ、23か国98都市の代表は、広島に集い、核兵器のない真の平和の構築に寄与するため「第1回世界平和連帯都市市長会議」を開催するに至った。

40年前のこの日、人間性を無視した原子爆弾が、歴史上始めて投下され、一瞬にして広島を壊滅させ、多数の尊い人命を奪ったばかりか、今なお多くの被爆者に後遺症の苦悩を強いている。この被爆の実相をつぶさに見聞した。その惨禍は、想像を絶するものであり二度と繰り返してはならないと痛感した。

われわれは、ヒロシマの体験をみずからの体験とし、これを過去の単なる一事実ではなく、人類の未来への限らない警鐘として受けとめ、核兵器廃絶と世界の恒久平和のために努力を傾注することを誓い合った。市民の生命と財産を守り、営々と築いてきた都市の歴史と文化を後世に遺すために、国境を超え、思想・信条の違いを超えて連帯し、堅い友好の絆によって、結び合うことを確認した。

今や、核兵器の廃絶こそ最優先の課題である。核実験の即時全面禁止が急務であり、非核武装地帯設定、非核都市宣言を支持するなどの諸行動の積極的な展開に努める。また、宇宙空間の軍事化を防ぎ、核兵器廃絶への国際世論の喚起に尽力する。さらに、協調と相互理解の精神に立って飢餓・貧困の絶滅に努める。我々は、米ソの指導者が、核軍縮、核実験・核兵器の開発及び生産の停止のためにお互いの指導力を尊重しあうことを訴える。我々は、世界各国に対し適切なる対処を求める。我々は、国連に対して、第3回軍縮特別総会の早期開催を強く要請する。我々は、来年の国際平和年を意義あるものとするための諸企画を積極的に実施する。

われわれは、ここに、世界平和連帯都市市長会議の名において訴える。何よりもまず世界の人びと、なかんずく各国の指導者は広島を訪れ被爆の実相を知るべきである。そして、平和と生命の尊さに改めて思いを致し、再び過ちを繰り返さないために、不信と対立とを克服し、都市と都市、市民と市民との連帯によって、軍縮への前進的な努力を積み重ね、恒久平和のゆるがぬ基盤を築き上げよう。

我々は、この会議が恒久のものであり、その事務局が広島市に置かれることを望み、今後も、より多くの都市が広島の地に集まり“平和の灯火”をもやしつづけることを信じる。

昭和60年8月6日

第1回世界平和連帯都市市長会議